

B 帯ワイヤレス (MCR42S) クイックガイド

トランスミッター
MTB40S



トランスミッター
MTP40S
(MTP41S)



レシーバー (スロットインタイプ)
: MCR42S

はじめに

このクイックガイドは、B 帯域で MTP40S (MTP41S) /MTB40S 送信機と MCR42S 受信機を運用するために必要な基礎情報を紹介しています。

目次

はじめに.....	2
目次	2
トランスミッター (MTP40S) の導入	3
電源	3
Menu 操作	4
マイク.....	4
コンパンダー	5
RF Power 設定.....	5
周波数の設定	6
アンテナ.....	6
トランスミッター (MTB40S) の導入	6
電源	6
マイク.....	7
設定メニュー (補足)	8
レシーバー (MCR42S)の導入	9
電源 (スロットイン)	9
電源 (オプション)	9
Menu 操作	10
コンパンダー	11
周波数の設定	11
アンテナ.....	12
オーディオ出力の設定	12
赤外線シンク	13
B 帯の周波数.....	15
GP と CH	15
15 波の多チャンネル運用	15

トランスミッター (MTP40S) の導入

電源

フロントカバーを開けると、単三電池 2 本 (※) を装着することができます。電池は、アルカリ電池、ニッケル水素電池、専用のリチウムイオン充電電池を御利用いただけます。

※ 単三電池 1 本仕様の MTP41S もあります。



バッテリー

電池は、正しい向きに新品 (または充電された) 電池を入れてください。電池タイプはメニュー設定で、Alkaline, Ene-PRO, Lithimu を指定できます。

電源投入

上部にトグル式の電源スイッチがあるので、“0”の位置から“1”の位置へスイッチを操作すると電源が入り、起動後に送信出力が開始されます。ディスプレイの右上に、“RF 10”と表示され、LED が緑色に点灯している時は、送信出力しています。



送信出力せずに電源だけ入れたい場合は、フロントカバーを開けて、SELECT スイッチを押し込んで電源をいれてください。ディスプレイの右上に、“RF off”と表示され、LED が赤く点灯している時は、送信出力していません。(一定時間操作をしないとディスプレイは消灯して、ユニットの電源が切れます。)

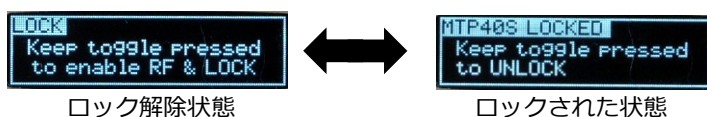


電源を切る

上部のトグル式電源スイッチを“0”の位置にして電源を切ります。(もしもロックモードに入っている場合、トグルスイッチが無効になっておいるため電源(と送信出力)が切れることはありません。ロックモードを解除してからスイッチを“0”にしてください。

ロックモード

ロックモードで LOCKED 状態にすると、常に送信出力した状態でボタン操作や電源スイッチ操作を受け付けなくなります。ロックモードは、メニューの“LOCK”表示中に SELECT スイッチを長押しして切り替えることができます。



Menu 操作

レシーバーの電源が入った状態で、SELECT ボタンを左右に操作すると、MENU リストの設定オプションを変更することができます。

マイク

モード (配線)

運用するラベリアマイクロフォンを装着し、コネクタ配線にあったモードに設定してください。MENU 画面から、**MIC > Mode** に入り、[2 wires] [2 wires+bias] [3 wires] から設定できます。

レベル

左から2つめの GAIN ボタンを押すと Gain を調整する画面にアクセスできます。マイクに向かって発声し、適切なインプットレベルになるように SELECT ボタンを左右に操作して Gain を調整してください。最後に SELECT ボタンを押して設定を確定してください。



ハイパスフィルタ

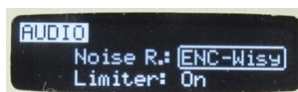
必要に応じて、低域成分をカットするハイパスフィルタを有効にしてください。MENU 設定から、**AUDIO > HP Filt** に、Flat/60/80/120/170/250/400Hz のオプションがあります。

リミッター

必要に応じて、Menu 設定から、Audio > Limiter で、On/Off を設定してください。オーディオレベルが大きすぎてリミッターが動作すると、LED が青色に点灯します。

コンパンダー

最適なオーディオ品質を保つため、コンパンダーの設定を適切なオプションに設定する必要があります。トランスミッターの Noise R 設定と、レシーバーの Expander 設定を必ず同じ設定にしてください。**推奨オプションは、JNR-Wisy** です。



※備考：JNR(ENR)はノイズ耐性に適する設定で、JNC(ENC)はヴォーカルに適した設定です。

RF Power 設定

RF Power オプションは、“10” と “L10” があります。6 波より少ない運用では“10”に設定することでトランスミッターのバッテリー消費を抑えることができます。“L10” は、B 帯という狭いバンド内で多チャンネル運用するための Low Intermodulation モードです。



周波数の設定

任意の運用周波数（806MHz～810MHz）で、レシーバーと同じ周波数に設定してください。

CH ボタンを押すと周波数設定が表示されます。



アンテナ

運用周波数によってアンテナの型番が異なります。適切なアンテナを運用する周波数に合わせて装着してください。アンテナの型番を確認するには、ユニットを再起動させ、起動時に表示される“Ant: 808” という番号を確認してください。



トランスミッター（MTB40S）の導入

MTB40S は、XLR コネクターにペンシル型のコンデンサーマイク（※）を挿し込んで運用できるプラグオン・トランスミッターです。



電源

電池の入れ方

バッテリーケースのカバーを開けると単三電池 2 本を装着することができます。電池タイプはメニュー設定で、Alkaline, Ene-PRO, Lithimu を指定できます。電池の挿入向きは、型番・シリアルナンバーのステッカーに記載されています。



※ Phantom(48V)をオフに設定してダイナミックマイクも利用できます。

電源投入

【ON】ボタンを押すと、起動後に送信出力が開始されます。

※本体にある PWR 文字は Firmware Update により無効になりました。



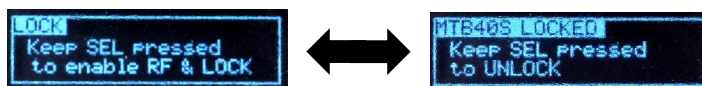
送信出力せずに電源だけ入れたい場合は、【CH/GAIN】と【ON】ボタンを同時に押し続けてください。画面に“RF OFF” が点滅して起動します。（一定時間操作をしないとディスプレイは消灯して、ユニットの電源が切れます。）

電源を切る

【OFF】ボタンを電源が切れるまで押し続けてください。（注意：ロックモードに入っているとこの操作で電源を切ることはできません。）

ロックモード

ロックモードで LOCKED 状態にすると、常に送信出力した状態でボタン操作や電源スイッチ操作を受け付けなくなります。ロックモードは、メニューの“LOCK”表示中に【ON】ボタンをを長押しして切り替えることができます。



ロック解除状態

ロックされた状態

マイク

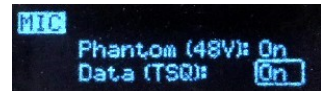
ゲインの調整、周波数の設定、ハイパスフィルタ、コンパnderの設定等は、別ページの MTP40S の設定を参照ください。

設定メニュー（補足）

MTB40S は、MTP40S に無くて MTB40S にだけあるメニュー設定について。

MIC - (Phantom):

コンデンサーマイクを利用するときは、メニュー設定の Phantom(48V)を “On” にしてください。

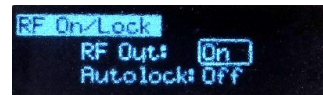


MIC - Data(TSQ):

トーンスケルチ設定は基本的に “On” で利用してください。“Off” にすると、レシーバー側のトーンスケルチ有効によって音声ミュート状態になったり、トランスミッターのバッテリー残量が表示できなくなります。

RF On/Lock – RF Out:

ラジオマイク電波の送出しの設定です。



RF On/Lock – Autolock:

デフォルトは “Off” です。“On” にすると、ディスプレイ消灯後に自動的にロックモードに入ります。【ON】ボタンで一時的にロックを解除できますが、ふたたび画面消灯後にロックされます。



レシーバー (MCR42S)の導入

電源 (スロットイン)

スロットインタイプなので、D サブコネクタから電源が供給されます。オプションの BCA42 を利用して、単三電池 5 本で駆動することもできます。



電源 (オプション)

オプションの BPA42HPN を D-sub25 コネクタの代わりに取り付けると、ヒコセ 4pin コネクタで給電することができます。あるいは、BPA42HPN にオプションのバッテリー・モジュール BCA42 を取付けて単三電池 5 本で運用できます。



パワーインジケータ

【ON LED】の点灯時の色で電源ステータスを把握できます。緑色は外部電源を利用しており、外部電源電圧が低くなると緑色が点滅します。淡い青色はバッテリーを利用しています。バッテリー電圧が低いと淡い緑色が点滅し、極端に電圧が低下すると赤色で点滅します。(画面のバッテリーはトランスミッターの電池です。)



電源投入

[POW/EXIT] ボタンを押すと電源が入ります。電源を切るときは、同じボタンを3秒以上押し続けてください。

電源を切る

[POW/EXIT] ボタンを3秒以上押し続けると画面でカウントダウンが始まり、最後にシャットダウンします。

RF LED

【RF LED】の点灯時の色で受信状況を把握できます。LEDが消灯しているときはレシーバーが無効です。緑色はアンテナ A がアクティブです。青色はアンテナ B がアクティブです。赤色は、両方のダイバーシティアンテナがスケルチ以下です。



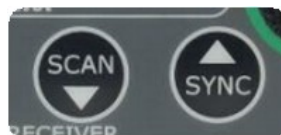
AF LED

【AF LED】が赤いと、トーンスケルチか RF スケルチによりオーディオがミュートされています。緑色はスケルチを検知していてオーディオが有効です。青色はスケルチを検知していませんがオーディオが有効です。



Menu 操作

[MENU/SEL] ボタンを押すと Menu 設定に入ることができます。Menu 画面から戻るには、[PWR/EXIT] ボタンを押します。メニューオプションを移動するには、[SCAN ▼] か [SYNC ▲] を押します。選択したオプションを決定するには、[MENU/SEL] ボタンを長押ししてください。画面に SAVED! と表示されます。



メインメニュー

トップ画面で [MENU/SEL] ボタンを押すとメインメニューのリストに入り、[SCAN ▼] ボタンで Infrared → Preset → Advanced → Info を巡回します。

チャンネルメニュー

トップ画面で [SCAN ▼] ボタンを押すと、チャンネルメニューのリストに入り、オーディオレベルメーター → 受信感度メーター → RX2 画面 → RX1 画面 を巡回します。

コンパnder

MCR42 のエキスパンダー設定は “JNR Wis” を推奨しています。設定を確認するには、メインメニューから Advanced → Edit RX1 → Expander に入ってください。最適なオーディオ品質を保つため、トランスミッター機のコンパnderが適切に設定されていることをご確認ください。

周波数の設定

任意の運用周波数（806MHz～810MHz）で、トランスミッターとレシーバーを同じ周波数に設定してください。

周波数の合わせ方

1. トップ画面から [SCAN ▼] ボタンを数回押して、RX1（または RX2）の画面を表示させます。
2. [MENU/SEL] ボタンを押すと、RX1 CH_01 が点滅してチャンネルを選択できるようになります。[SCAN ▼] ボタンを押して目的の番号に合わせます。（01 から 30 まで選択できます。）
3. 画面に “SAVED!” と表示されるまで [MENU/SEL] ボタンを長押しします。



アンテナ

使用する周波数帯に適したアンテナを接続してください。MCR42 の電源を入れると、型番とシリアル番号が表示された後に、推奨されるアンテナが（B 帯の場合は YELLOW 808）が表示されます。

スケルチ設定



スケルチのスレッシュホールドレベルは、**Advance > Edit RX1 > Squelch** で Off, 0~46dBuV（3dBuV ステップ）に設定できます。スケルチを有効にすると電波状況が悪くてもノイズが入りにくくなります。ノイズが入るよりも発話内容が途切れることを避けたい場合は Off にしてください。

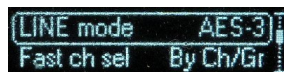
トーンスケルチ設定



トーンスケルチは、Menu 設定で、Advanced > Edit RX1 > Tone sq. で、On / ADV を設定できます。※ スケルチの Advanced 設定は、トークボタンを有するトランスミッター用の設定です。発話しないときにオフにできるスケルチ機能の拡張機能です。

オーディオ出力の設定

出カタイプ



アナログ信号か AES3 デジタル信号(SF48kHz) のどちらかが出力されます。

1. メニューから **ADVANCE** に入ります。
2. Power on → Edit RX1 → Edit RX2 → **Line mode** → Fast ch sel → Display Signalling → Act code → Sync → Panel locked と循環する中の、**Line mode** で [MENU/SEL] ボタンを押します。
3. Analog か AES3 のどちらかを選択します。

出力レベル



出力最大時の信号レベルを設定できます。

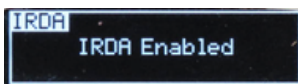
1. メニューから **ADVANCE** に入ります。
2. メニューから **Edit RX1** で [MENU/SEL] ボタンを押します。
3. Name → Gr-Ch → Frequency → Squelch → Expander → Tone sq → **Audio out** → Sig phase → Scan → Cal. Tone と循環する中の **Audio out** で[MENU/SEL] ボタンを押します。
4. Base → **LINE max lev** → AES3 max lev → COM max lev と循環する中の Line max lev で [MENU/SEL] ボタンを押します。
5. -24dBu ~ +18dBu まで 1dB ステップで設定できます。

赤外線シンク

赤外線通信により、レシーバーに設定した周波数をトランスミッターに同期させることができます。

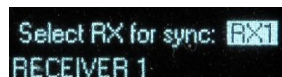
1) トランスミッターの準備

トランスミッター側を赤外線受信モードにするには、SELECT ボタンを操作して、“IRDA Enabled” と画面に表示させてください。



2) レシーバーの準備

MCR42S のフロントパネルにある [SYNC] ボタンを長押しすると、シンク設定画面にショートカットできます。メニューからアクセスするには、Advanced → Sync と入ります。Select RX for sync: RX1 が点滅するので、RX1 か RX2 に設定し、[MENU/SEL] ボタンを押すとシンクが開始されます。



3) シンクさせるには。

赤外線通信用の受光部が向かい合うように、ユニット双方の向きと位置を調整してください。

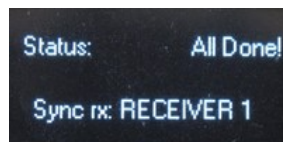
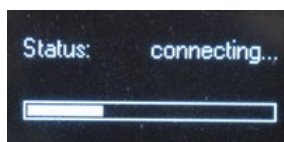
レシーバー



トランスミッター



通信が完了すると、レシーバーの画面は、「connecting…」から、「All Done!」に表記が変わります。



B 帯の周波数

GP と CH

B 帯はグループ (GR) とチャンネル (CH) の組み合わせで運用できるようにプリセットが組まれており、同じグループ (GR 1~7) 内のチャンネルに設定することで混信することなく運用できます。

15 波の多チャンネル運用

Wisycom ワイヤレスシステムは L10 モードに設定することで最大 15 波※まで同一空間で運用することができます。GR を 00 に設定し、下記の表の帯カラーのチャンネルに合わせて運用できます。

CH	周波数		
1	806	125	1
2	806	250	1
3	806	375	2
4	806	500	2
5	806	625	3
6	806	750	3
7	806	875	4
8	807	000	4
9	807	125	5
10	807	250	5
11	807	375	6
12	807	500	6
13	807	625	7
14	807	750	8
15	808	875	8

CH	周波数		
16	808	000	8
17	808	125	9
18	808	250	9
19	808	375	10
20	808	500	10
21	808	625	11
22	808	750	11
23	808	875	12
24	809	000	12
25	809	125	13
26	809	250	13
27	809	375	14
28	809	500	14
29	809	625	15
30	809	750	15

※ Wisycom の多チャンネル伝送技術

狭いバンドで 15 波を運用できるように、送信機と受信機の両方に優れた技術が用いられています。相互変調歪 (インターモジュレーション) が発生しないように、送信機にはキャンセラー回路が設けられています。受信機では精度の高いフィルタ回路を搭載することで多チャンネル運用を最適化しています。



日本テックトラスト株式会社

営業所

〒151-0062 東京都渋谷区元代々木町 30-13 ONEST 元代々木スクエア 1 階

E-MAIL : sales@tech-trust.co.jp URL : <http://www.tech-trust.co.jp>